



## 地域の方にゲストティーチャーをお願いするわけ

私がゲストティーチャーの方を子どもたちに紹介する時に、「〇〇さんは、この〇〇小学校の卒業生です。」と言うと子どもたちは決まって「お～！」と言って驚きます。この反応はどのようなのでしょうか。目の前にいる大人が、今自分たちが学んでいる、遊んでいるこの学校で同じように過ごしていたと想像する驚きなののでしょうか。ゲストティーチャーの方を身近な存在に感じる瞬間なののでしょうか。

今回外江小学校で、こめや産業の浜田貴年さんが、弓浜半島の郷土料理である『いただき』について教えてくださいました。『いただき』のことだけでなく、なぜ自分がこの仕事に就いたのか、また人と人との繋がりの中で成長していくことの大切さ、学ぶとはどういうことか、などたくさんのお話をしてくださいました。ふるさとを愛する子どもにも育ててほしいという思いがあるからこそ、その思いは子どもたちにも伝わるのだと思います。「浜田さんのお話を聞いて、いただきが食べたくなりました。たくさんの人に伝えていきたいです。」と児童の素直な感想に浜田さんも「子どもたちの反応が嬉しかった。このような形で母校に関わられて良かったです。」と言っておられました。

地域の方にゲストティーチャーをお願いするわけは、学校や家庭と一緒にあって地域の子どもの成長を見守ってほしいからです。人生の先輩としてこれからもよろしくお願ひします。



浜田貴年さんが中学校の時、外江小学校の松尾校長の教え子だったそうです。校長室で思い出話に花が咲いていましたよ。

## 誰かのために働こう(三中・生徒会)

図書館で学級文庫を20冊選んでいる男子生徒がいました。「どうしてそんなに悩んで選んでいるの？」と聞くと「クラスみんなが喜んでくれる本を探しています。」と答えてくれました。自分が読む本を選ぶのは簡単なことだけど、友達がどんな本を読みたいのか考えるのは大変なことです。それでも時間をかけてじっくり選んでいる姿にクラスの友達への思いやりを感じました。

三中では、生徒が有権者としての意識を育むために、市役所から投票箱と記載台をお借りして、立候補者の演説の後、生徒全員が投票します。新しい生徒会では、「誰かのために働こう」とスローガンを委員長さんが発表している委員会もありました。生徒会が発行している『SUN中新聞』を地域にも掲示しています。見かけられた際には、足を止めてゆっくり読んでいただけたらと思います。



三中・生徒会選挙



渡小・芋ほり



外江小・中海学習



外江公民館まつり



渡小・町探検



外江小・しらおの森

左の写真は外江小のしらおの森です。しらお塾(宿題見守りボランティア)の方が「平日は子どもたちがいたら危ないからね。」と、土日の児童がいない時に刈り払い機をかけてくださいました。「こうした地域の方の応援があると、教員も子どもたちに向き合える時間が増えて本当に助かります。」と松尾校長は言うておられました。いつもありがとうございます。 文責：高梨 典子(地域学校コーディネーター)